

みずきの下をかよう風

自立への道のり 3 生活の安定

自立支援で「何ができるでしょうか?…」それが前号の問いかけでした。わたしたちはまず、生活の安定が必要だと考えています。利用者が安全・安心な生活の場を得て、整ったリズムで日々を暮らすことから自立は始まるのです。それでは、利用者の生活を安定させるにはどのような関わりや運営がいいのか、この一年半、自問自答してきましたが、今、大切にしていることはストレスの少ない心身に心地よい環境を用意することです。

自立援助ホームでの生活を安定させる第一の要素は就労することです。生活の場があるだけでは安定しません。それだけでは不十分です。自分が所属する場が外にあること、働いて賃金を得て生活を形成すること（アパートを借りる＝自分の空間を手に入れる・わたしの家財を持つこと＝私有財があることの満足・携帯電話の所有＝他者とのつながりや社会の情報に触れる機会を得る）、職場の仲間との交流や社会的規範の中に身を置いて、社会人としての位置を実感することなどがその要素としてあげられるでしょう。

しかし、就労にはストレスが伴います。人間関係や仕事のノルマ、単純作業の繰り返し、労働条件の悪さ等が利用者に大きな影響を及ぼします。ですから、ホームはそれらを癒す場所、穏やかな場所として機能しなければ、利用者の安定は望むべくもありません。それは、第二の要素である「心身に心地のよい環境」です。その内容は、「自立」という言葉で利用者の生活をくくらないこと、つまりやらなければならない日課の設定を緩やかにして、それを強いないこと、寛ぎ、楽しみ、甘えることができる環境を作り出すことです。

このように書くと、「甘い」と思われるでしょうか。社会はそんなに甘くない、もっと厳しく教えて、一人でできることを増やすことが大切…と言われそうです。そのような考え方もあるでしょうが、わたしたちは甘いことが大切であると考えています。利用者は自らの課題は何か、周囲から何を求められているかを十分に承知しています。「云われなくても



けやきの冬

そんなことわかっている」…ならばやればよいと思うのですが、頭でわかっても行動に移せるかどうか、そこが人間の厄介なところです。わたしたちにもあります。もっと事前に準備すればあわてなくてすむものを、事が始まる直前になってしか動かないことが…。テストの準備、プレゼンテーションの準備、然りです。

「心地よい環境」は彼女らに何をもたらすのでしょうか?それはよくわかりませんが、たぶん彼女たちの意欲の源になるに違いないと思うのです。 (ホーム長：加藤さい)

生活の場から—キャッツの世界に感激！

10月の行事は「キャッツ」の観劇でした。みずきの家では毎月1回、全員が参加する行事を行っています。カラオケと映画鑑賞を交互に行うのが常ですが、10月は奮発して横浜で「キャッツ」を



見ることにしました。実は、去年は8月の行事で大阪のUSJに行きました。利用者が一人だったので実現しましたが、今年の夏は利用者が6名いて予算が確保できず、とても遠方へ出かけられませんでした。せめてディズニーランドへ行きたいという要望がありましたが、結局、実現しませんでした。そして、案として急浮上したのが「キャッツ」でした。

何故「キャッツ」？テレビのコマーシャルに登場する劇団四季の公演を見てみたい、と思っている利用者が多かったから…加えて、「キャッツ」を見たことがある利用者がいなかったこと、何よりも行事を提案するわたし自身が見たいと強く思っていたからです。（強く思えば希望はかなう？）

10月9日の日曜日、朝10時に出発して途中コンビニでおにぎりやパンを買い、キャッツシアター入り口で開場までの待ち時間に昼食を済ませました。待ち兼ねるように館内に入ると、そこはもう猫の世界一色でした。何もかもが大きくなって壁中に張り付いています。ゴミ屑になったお菓子の箱や飲料水の空き瓶、錆びついた自転車やタイプライター等など、まるで廃棄物処理場の片隅に紛れ込んだようです。常設のシアターでなければできない装飾であると感嘆してしまいました。

「キャッツ」の内容は、今更ここで書くまでもありません。個性ある猫たちの世界を、歌と踊り、そして体じゅうで表現する役者たちを堪能しました。この秋に8千回の上演を記録しましたが、継続することの意味は洗練された舞台全体に溢れて、あらゆる事柄に感じることができます。利用者それぞれの詳細な感想は聴いていませんが、「また観たい」「涙が出てきた」「すごかった」と言っていました。



みなとみらいの夜景

みずきの家では日常性を大事にしています。毎日と同じように過ごし、その安定感の中で様々な事を感じていくことが大事であると考えのですが、そればかりでは力が湧きません。非日常性もバランスよく取り入れることが、生きる力になります。この度の「キャッツ」は、まさにそのことを考える機会になりました。8千回を積み上げることの意味、それは日常性に他なりません、彼らはどこに非日常性を作り出し、日々の糧にしているのでしょうか。それはたぶん観客との対話、そして反応に敏感であること以外にないのではないかと勝手に思うのです。（利明）

お知らせ(1)

みずきの家は活動に必要な資金を集めるために、「みずき育成募金」を行っています。一般的には会員を募集して、その会費で運営するのですが、わたしたちはそのような方法を取っていません。あくまでも募金でまかないたいと思っています。皆様、「みずき育成募金」にご協力ください。よろしくお願い致します。

みずきの家 紹介 第12回

今回は、みずきの家第1回ガレージセールと「なかよしフェスタ」についてお伝えします。

11月26日(土)、白い衣をまとった様な富士山がよく見える晴れた一日、地域の公民館で開催された「なかよしフェスタ」に、みずきの家として初めて焼きそばと焼き鳥のお店を出しました。写真(右)南足柄市の主任児童委員さんからの誘いで実現したもので、その他に役員さんの昼食135食を作りました。初めてのことで準備が十分



でなく、お手伝いをしてくださった方々にはご迷惑をおかけしましたが、大きな問題もなく終了することができました。役員さんからは「次回も…」との声もあがり、うれしい限りでした。

同日、みずきの家では第1回ガレージセールを行いました。準備の段階で品物が集まるか心配しましたが、お陰さまで並びきれないほどの量になり、100円、200円、300円、500円以上のコーナーに分けてセールを行いました。広報が十分できなかったこともあってお客さんが集まりませんでした。ボランティアの方が数人で周囲をまわって宣伝してくださったおかげで、それなりの売り上げになりました。これからも年に2~3回のペースで実施していきますので、皆様のご協



ガレージセール

力をお願い致します。

【お手伝い・ご協力をいただいた方々】

前田さん・清水さん・山屋さん・持田さん・佐々木さん・宮政さん・長谷川さん夫妻・中村さん・大山さん・横浜ベイロータリークラブ(杉本さん・山本さん・近藤さん)・石川さん・高橋さん・本多さん・杉浦さん夫妻・津澤さん・大野さん・主任児童委員の方々・若林製作所さん・SOKKIAさん・アルテさん 他

【寄付をいただいた方々】横浜ベイロータリークラブ・小田原ロータリークラブ(廣澤さん)・聖心の布教姉妹会・聖園子供の家・県社会福祉協議会・相模原児相の皆さん・おおいそ学園・デイサービス和らぎ(田代さん)・市議会議員(加藤さん)・安江さん・古澤さん・長谷川さん・小原さん・宮沢さん・柿沢さん・今井さん・風間さん・宮政さん・和興商会の皆さん
杉浦さん 他 (以上順不同)

…多くの方々のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。…

みずきの家 10・11月活動記録

【10月】

- ・ 2日 利用者誕生会 パン作り
- ・ 3日 パルシステム援助金引渡式
- ・ 5日 厚木児相心理司来訪
- ・ 8日 狩川土手草刈り(町内会)
- ・ 9日 横浜キャッツ観劇(7名)
- ・ 11日 てんぼ運営委員会(横浜)
- ・ 13日 入居相談
- ・ 17日 てんぼ理事会
- ・ 19日 利用者誕生会
- ・ 26日 全国自立援助ホーム北海道大会
- ・ 31日 横須賀市児相CW、心理司来訪

【11月】

- ・ 2日 厚木児相CW来訪
- ・ 4日 厚木児相CW来訪
- ・ 7日 横須賀市児相・白十字会林間学校来訪
- ・ 9日 てんぼ運営委員会(横浜)
- ・ 10日 相模原市児相CW来訪
- ・ 13日 スクールカウンセラー研修会講師(ホーム長)
- ・ 15日 アフターケア勉強会(日本水上学園)
厚木児童相談所 CW来訪
- ・ 17日 県社会福祉協議会 機関誌取材
- ・ 19日 夕食作り(岩淵さん・前田さん)
- ・ 21日 スタッフ会議
- ・ 26日 なかよしフェスタ・ガレージセール

野らり暮ら里のおたより その5

(岐阜県からお米を送っている支援会員／安江 忠)

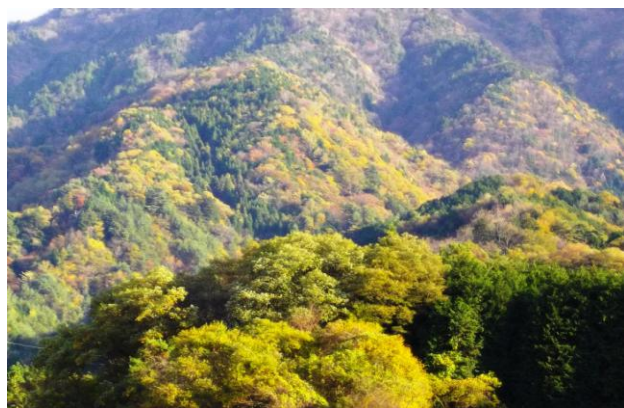
暖かな秋が続きました。ようやく冬到来の兆しが見え始め当地の山々も彩り豊かになりました。一年で一番きれいな時期です。しかし、季節の移ろいはよいことばかりではありません。冬支度のために多くの獣たちが里へ下りてくるのです。年中害を被るイノシシをはじめ、熊や鹿までもが姿を見せるようになりました。イノシシはサツマイモや南瓜が好物のようですし、あまり口にしないトマトや里芋の畝までも餌を探すために掘り起こしていきます。その力や尋常ではなく、トラクター以上の深さにまで耕してくれます。

栗や柿の果樹を狙うのは熊です。枝ごと折って食べていきます。昨秋はついに人的被害も出てしまいました。隣の集落で夕方に犬の散歩をしていた男性が熊と遭遇、顔に数十針のケガを負ったのです。山奥の話ではなく、住宅街にきわめて近い場所での出来事でした。

日本鹿は車と衝突する話題が珍しくないほどに増えています。畑の菜類を食べる被害も出始めました。実は当地域（恵那山系）では絶滅したと言われ、明治期以降その姿を見た人がいなかった動物なのです。僅かに生息していたものが繁殖したのか他地域から移ってきたのか、いずれにせよ不思議なことです。

自然がもっと豊かだった昔はどうだったのでしょうか。こんな事は日常茶飯事だったかと言えば、まったく逆のようです。地域のお年寄りに聞くと、こんな現象は最近目立ってきたことなのです。鶏がキツネに獲られたり狸にトウモロコシを食べられたり被害は度々あったものの、前述のような大型獣は未知の動物でした。猟師など一部の人間しか知らない世界の話だったのです。

今、トタン板の塀や電気柵で囲われた農地の風景が珍しくなくなりました。日本中のことです。我が家でも電気柵でイノシシの被害を防いでいるのですが、漏電をさせないためには電線の下草をいつも刈る必要があります。その長さはなんと600mにも及びます。年間を通した頻繁な草刈作業は、それはそれは大変な重労働なのです。高齢化する農村では、獣害によって廃業する農家の事例も珍しくありません。当地ではまだ猿が出ないだけありがたいと思っています。すでに隣の木曾谷では猿に頭を悩ませています。田畑の作物はおろか、軒先や家の中まで害を受けるらしいのです。「猿が来たら、もう百姓はやっとられんなあ」とよく話します。どうしてこんな事になってしまったのでしょうか。悲しいことです。



裏山（恵那前山）も美しくなりました。

お知らせ(2)

11月26日(土)に開催されました、「なかよしフェスタ」「みずきの家第1回ガレージセール」にたくさんの方々のお手伝いをいただき、また多くの物品を寄付していただきました。誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。なお、当日の売り上げは142,023円でしたのでご報告いたします。



2011年12月1日発行 (第13号)

自立援助ホーム みずきの家

〒250-0124 神奈川県南足柄市生駒75番地

TEL: 0465-43-8302 FAX: 0465-43-8258